

講師の皆様に親近感を覚えました。私もいつか。。。

繁野玖美・作業療法士（社会福祉士、相談支援専門員でもあります）

素晴らしい講義をありがとうございました。しかし、なかなかレポートが書けませんでした。それは、高橋様のテレビ番組のディレクターとしてのお話とサポートセンター沼南の皆様との相談支援専門員としてのお話が、私の中でなかなかドッキングせず、何を書いたらよいのか悩んでいたからです。二つの話は全く違うようでも何か似ていて、でもそれを言語化することができなかったのです。

全く違うと思ったのは、対象としている相手です。高橋様では主に子育て中の全国の視聴者です。全国の視聴者は住んでいる場所も状況も文化もそれぞれ異なり、子育てという共通のテーマであっても相手のニーズや困りごとを把握することがより難しいと感じました。このため、「炎上」が起こるのかもしれないと思いました。

一方、サポートセンター沼南の皆様の対象は、柏市に住む障害のある人、支援者、住民です。講義の中でおっしゃっていたように、20年近く地域の中で仕事を続けてこられ、『地域を知っている、制度を知っている、ネットワークを持っている』と3拍子揃っています。地域の文化や課題、その地域で暮らす人々の楽しみや困りごとなどはある程度予想がつくのではないのでしょうか。ひとつの地域の中で従事するメリットは大きいと感じました。

次に、似ている点ですが、それは『皆に幸せになってもらいたい』と考えて、日々行動している点だと思いました。高橋様は『「物議を醸す」ことを恐れてはいけい・・・闘う、ことも必要。ディレクターの役割は「声を拾う、聞く、整理して伝える（イタコ?）。目の前の人の思いにとことん寄り添う、同時に「社会全体を見る」とおっしゃっていました。一方、サポートセンター沼南の皆様は『「夢や生きがいを応援したい、楽しい相談をしたい」ために、「知ってもらいたい、一緒にやりたい』と、真の相談や連携を目指し様々な企画を実現されていました。そして、ゆき様や「えにしを結び会」のネットワークが、そうした想いの強い味方であることも共通していると感じました。

今日の講義もいつも通り「生きた教科書に学ぶ」貴重な機会でした。しかし、他の講義より自分との距離がほんの少し近いと感じ、講師の皆様にはより親近感を覚えました。私もいつか自分の実践を語れる日が来るよう、「今」を頑張っていきたいと思います。

繁野玖美